

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念をかかげ、職員一丸となってケアを行っている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者への生活支援をより具体的な言葉で毎朝唱和し、職員共通の理解のもと、ケアに活かす努力をしている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入所時に契約書、重要項目説明書、同意書を説明。玄関、リビング、廊下に理念を提示し、来客者に説明している。	○ 家族への説明はしているが、地域の人々にも理解してもらえるように、ホームの催し物の際には案内し、参加して頂けるように努力していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩で挨拶を交わす方へ、手作りの草餅を配ったり、秋祭りにしし舞が来たりと、関わりも増えつつある。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会とは、秋祭りの際に、しし舞がホームに来られ、しし舞を舞って頂く交流はあるが、地域活動に積極的に参加できてはいない。	○ 今後は、民生委員等を通して、地域の催し物を知り、地域の催し物に利用者と一緒に参加し、地元の人々との交流を深めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	積極的には、話しあっていない状況である。	○	今後、運営推進会議等で地域に役立てることはないか、力になれることはないかを民生委員等と話し合い、地域への貢献を行っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	勉強会、職員会議等で、運営者、管理者が職員に説明し、理解してもらうようにしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度は会議を開き、近況報告及び改善点等について討論し、サービス向上のために活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	民生委員との情報提供はしているが、運営推進会議以外に行き来する機会はつくれていない。	○	民生委員との関わりを大切にしながら、運営推進会議以外にも行き来する機会をつくりたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	講演には、最低1名参加し、勉強会において職員にも復講している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士が注意を払い、防止には努めているが、高齢者虐待防止関連法については、全ての職員が理解できていない。	○	今後、職員会等で学ぶ機会を持ち、全ての職員が理解できるよう取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に施設長、管理者が利用者、ご家族に説明して、不安や疑問点を軽減し、理解を得たうえで、入所を決定している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とのコミュニケーション等の中から、意見、不満、苦情の把握をし、日々の申し送りや職員会議で検討して、ケアにつなげている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会に来られたときには、ご家族ともコミュニケーションを取ると共に、毎月、ホーム便りと一緒に、個々の暮らしぶりについて報告する報告書を郵送している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた時にコミュニケーションを取り、把握したり、玄関に意見箱を設置し、反映できるよう努力している。	○	今後は家族会を開催することも検討し、よりご家族の意見を日々のケアの中に反映していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の勉強会や職員会の時に話し合いをしたり、ロッカーに意見箱を設置し、ケアの向上のため、反映させる努力をしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	各々の時間帯において、状況の変化、要望に対する対応は、職員同士で十分できている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、最小限に抑えるようにしている。また、日ごろより、ユニットの関係なく、利用者への声かけを行い、異動時の不安の軽減に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた研修は受講している。内容は受講報告書に記入し、勉強会等で他の職員に報告しているが、全ての職員に周知はできていないため、ノートに書いて目を通してもらっている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回の職員会、勉強会を開き、助言、指導、文献の提供等を行っているが、同業者と交流する機会はまだ持っていない。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間の親睦にとどまっており、ストレスを軽減するための工夫や環境づくりはできていない。	○	今後は外部者と接する機会を設けたり、悩みの聴取を積極的に行い、少しでもストレスを軽減し、働きやすい環境を作りたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎月、1か月の目標と反省を施設長に提出し、個々に目標、向上心を持ってケアに努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者の主な病歴、既往歴、現在の状況を十分に把握したうえで、希望を聞き、入所を決めて頂いている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設長、管理者が、直接、家族より悩みを聞き、相談にのって、不安を受けとめる努力はしているものの、機会はまだ持っていない。	○	今後、入居が決定するまでに相談にのる回数を増やし、よりご家族の意向や不安を明確にし、相談にのっていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々、解決及び支援するよう努力はしているが、十分とはいえない。	○	より家族や本人の希望に添えるように、相談を受けた時点での解決に力を入れていきたい。責任者、管理者との連携を図っていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならないうちに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者やご家族に見学に来て頂いたり、1日体験(宿泊)をして頂いたりして、雰囲気に馴染めるように努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活、コミュニケーションの中から、利用者の喜怒哀楽を感じ、随時、声かけ等を行い、お互いに支えあって共同生活を送っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に積極的にコミュニケーションをとり、ご家族の思いを理解しながら、共に利用者を支えていく関係が築けるよう努力している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族に対しては、笑顔での挨拶、近況報告、湯茶サービスをし、宿泊対応も行っている。また、時間の許す限り、面会に来て頂くよう声かけを行っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の友人や知人が面会に来られたり、その際に、利用者と外食や自宅に外出する等、馴染みの人、場所との関係は継続している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	おやつ作り、メダカの世話、手芸、園芸、カラオケ、裁縫等、得意な方や手伝って頂ける方をお願いし、他の利用者も交わるよう場面作りをしたり、声かけをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ホーム内で行われる催し物に声をかけ、来所して頂く等の取り組みを行い、退所後のつきあいも大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時、利用者、ご家族よりアセスメントや情報を取り入れ、生活歴を把握して、言葉かけ等に注意をはらっている。本人本位であり、尊厳を守る努力をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室には、各々家庭より持参の小袖ダンスや仏壇等の馴染みの品が持ち込まれており、やすらぎの場所となっている。また、行きつけの美容院を希望されている方は同行している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者自身でできることは見守り、自立支援の援助、残存能力の活用を行い、自分のペースで生活を送って頂けるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族には、電話や面会の折に現状を説明し、相談の上で計画作成しているが、意見やアイデアを十分反映はできていない。	○	特に、面会の折には、利用者の状況を目で見て頂き、職員と話し合い、十分に意見やアイデアを出して計画作成を行いたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	主治医、看護師、PT(理学療法士)、OT(作業療法士)、ご家族、管理者、職員等が会議に出席し、3か月ごとの見直しや随時の見直しを行い、現状に添った新たな計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日誌や申し送りノート、受診記録を参考に、個別介護日誌に、随時具体的に変化を記録し、職員同士で情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	園芸活動や買い物の付き添い、野菜の皮むきや掃除、入浴介助、ぬり絵やはり絵、手芸、ゲーム等のレクリエーションを行い、多機能性を活かした支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者の安全を図るため、消防、警察との連携をとっている。また、行事等の時は、ボランティアの方が来てくださり、催し物をしてくださっている。	○	今後も、利用者の安全のため、連携をとりながら支援していきたい。民生委員の方にも、施設の催し物の時等に積極的に参加して頂けるよう、チラシの配布等を行ってきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居時に地域のケアマネジャーと話し合い、利用者の意向を十分にキャッチし、支援をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ、対象者がいないため、協働はしていない。運営推進会議時に参加して頂いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医の往診時の助言や、指導のもと、24時間対応をしている。また、緊急時の対応の用意もあり、勉強会で救急法の研修を実施している。	○	勉強会だけでの救急法の研修では不十分なため、消防署による救急法研修も実施し、全職員が救急車が来るまでの対応を身につけたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在、認知症専門医の治療は受けられていないが、個々のかかりつけ医より診断、治療を受け、必要時には専門医との連携をとっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を各ユニットに1名ずつ配置し、内服薬の管理、受診の計画、その他、排尿状態などを介護職員からの情報を得て、対応している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	主治医、担当ナースと連絡を密にし、入院中も度々面会に行き、早期退院に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	個々の利用者、家族に対して、入居時に希望を聞くようにしている。また、変化のあった時には、随時希望を聞いたり、書面等に記入して、聞くようにしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	運営者、ケアマネジャー、看護師等で状況に応じた対応を行っている。また、結果を職員にも知らせ、チームの連携を行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	主に、主治医、ケアマネジャー、相談員等で十分に検討して、受け入れを決めている。また、退所時は家族と十分な話し合いの上、納得のいく退居先への移動を、連絡注意事項に文書化して実施している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者のプライドを傷つけない言動が実行できるよう、職員には、管理者が手本を示し、気づかせる教育をし、全体の質の向上のため努力している。利用者との会話時、敬語を使用している。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者の希望等を会話中でキャッチし、エレクトーンや折り紙、パズルや手芸の選択の中で、生活を楽しむ支援をしている。また、衣服は利用者に選んで頂き、自分で決めて日々生活されている。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>生活のペースを保ちつつ、入浴、食事にかかる時間も、各自、本人のペースを守りながら暮らしていただけるよう支援している。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>月1回の訪問の利用や、外出しての馴染みの店、希望に応じて新しくオープンした美容店に同行する等、利用者の希望に対応している。</p>	
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員も一緒に食事をとり、テレビは消して会話を楽しみながら、食べこぼし等は、おしぼりやティッシュペーパーにてさげなく行っている。野菜の皮むき等はお願いしているものの、片付けは行っていない。</p>	<p>○ テーブルの机ふきやお盆ふきなど、利用者にできることはして頂くよう声かけを行っていききたい。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>買い物の際には、少量の好みのおやつを購入され、職員の見守りの内に食されている。行事のときには、お酒を飲まれたり、たばこを吸われる方は喫煙場所にて、医師から決められた本数を喫煙されている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	おむつを使用されている方はいないが、排泄チェック表を基に、昼間は声かけを行うことで、トイレへ行く習慣認識を持てるよう援助している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴以外、希望者にはシャワー浴など、湯加減、入浴時間も希望に添うように配置している。また、随時、清拭や陰部清拭を行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転しないよう日中は離床を促し、散歩も気分転換に取り入れている。不眠時は、対話にて対応し、眠剤はできるだけ使用を避けている。外出時は、過労にならないように休憩時間をとっている。		
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物をたたんでいただいたり、手作りおやつを作ったり、野菜を切ったり皮をむいていただいている。また、野菜、花を作っていただいたり、食材の買い出しにも一緒にしていただいている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理を希望されている方は、金銭を自分で持参、力量に応じて、買い物も自己精算してもらっている。多額の場合は、ご家族の了解のもと、ホームで管理し、使用后、領収書と共に報告している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の要望は、可能な限り聞き、実現するよう支援している。外食や買い物等の同行を行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	地域の行事や季節の催し物(お花見、遠足、しょうぶ祭り、菊花展、紅葉、夏祭り、秋祭り等)に行っている。ご家族との外出は、数名にとどまっている。	○	ご家族と利用者との交流を増やすため、毎月郵送しているホーム便りで、参加を呼びかけたり、面会時、声かけを行ったりする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	郵便物は利用者に手渡ししている。年始めには年賀状を書かれる方もいる。電話使用時は、子機を使用している。居室にて利用できるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来客者に対しては、笑顔での挨拶、接客を行っている。湯茶サービス、宿泊対応も行っている。また、丸イスを居室に持って行き、施設内でゆっくり過ごして頂くよう心配りをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。身体拘束委員会等で研究を重ねて、日々のケアに活かしている。しかし、全ての職員が“具体的な行為”を正しくは理解できていない。	○	全ての職員が正しく理解できるよう、月1回の職員会、勉強会等で正しく理解し、ケアに取り組んでいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	面会時間終了時までは錠をかけず、玄関チャイムにて対応している。常に察知できるような位置で、見守りのケアを行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	事務室、調理配膳場所等、常に見守り、把握できる所があり、昼夜を通して、利用者の安全に気を配っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、刃物等は利用者の目のつかない所に保管しているが、洗剤(台所用、洗濯用)は保管、管理方法を取り決めていない。	○	洗剤(台所用、洗濯用)の保管、管理は、利用者の目の届かない所に保管するか、箱や柵の中に使用以外の時は収納するように工夫が望まれる。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書、ヒヤリハットに記載し、提出を義務づけている。マニュアルはあるが、すべての職員が内容を理解し、マニュアルどおりに行動できるか不安である。	○	再発防止のため、マニュアルの再確認を職員会議、勉強会議で行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会、職員会で救急法は学んでいるが、全ての職員が理解できているとは言えず、十分とは言えない。	○	事業所内だけでは不十分と言えるため、直接、救命士より心肺蘇生法の講習を定期的に受け、訓練をしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回避難訓練を実施しているが、地域の人の協力を得られるような働きかけはできていない。	○	地域の人々の協力を得られるよう、今後も職員が地域の人々に積極的に挨拶をし、ホームの様子について会話したりしながら協力を呼びかけていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入所時にご家族を含め、入所者に対して説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	変化、異常のサインが認められた時は、速やかにバイタルチェックを行い、看護師に連絡し、指示を仰ぎ、早期対応に努めている。また、その旨を個人記録に記入している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服薬は、医師の指示通り実施できるよう、常に職員が受診報告書、薬ファイルに目を通して確認している。また、薬の副作用についても勉強会にてとりあげ、認識している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給、毎食の食事、気晴らしのための散歩や個々で行う便秘の運動等で排便を促しているが、便秘時は主治医と連絡を取り、適宜に薬を使用し、便秘の予防と対応に取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけ、一部介助、義歯の手入れ、うがい等、声かけをしている。また、年に1回、訪問歯科医のアドバイスを一人ひとり受け、支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿食、カロリー食、塩分制限者がおられ、摂取量、水分量の把握を行っている。おかゆを希望される方にはおかゆを作り、咀嚼の難しい食物はきざむ等、状態に応じた支援をしている。	○	一人ひとりの状態に応じた支援が行えているものの、栄養のバランスを指導する者がおらず、今後栄養士のアドバイスも考慮したい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染防止マニュアルに沿って対応している。免疫力の低下を防ぐように生活管理、手洗い、予防接種を行っている。現在、感染症の方はおられない。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	各ユニットに食材管理者を配置し、食材の管理に努めている。また、食中毒については勉強会で勉強し、各職員が食中毒の予防に気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	スロープの設置された玄関には、四季折々の花を植えたり、フラワーポットを設置している。ウッドデッキからの利用者のあいさつもあり、親しみやすい配慮がある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに続くウッドデッキは開放感があり、室内は広々と明るく、畳の間は落ち着いた生活空間となっている。また、物品については、家庭と同じ物品を使用し、家庭的な雰囲気の中で生活して頂いている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスや中庭にテーブルやベンチを置き、花を置いたり、メダカを飼育している。畳の間や景色が望めるウッドデッキ、廊下の一角にあるソファなど、居心地の良い場所を確保している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者及びご家族の希望にて、家庭より持参のタンスや仏壇などの品を持ち込まれている。また、家族等の写真を飾り、個々の好みに合わせた居室で過ごされている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気設備により、24時間快適な温度が保持されている。エアコンの温度調節も適宜に行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内、バリアフリーに設計されている。廊下、トイレ、風呂場等には手すりが設置されており、トイレ内にもバーを設置している。ホール内の洗面所は、車椅子の方でも使用できるようになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレには男子用、女子用と表示している。居室が分からなくなる人には、入り口にはり紙等をし、目印を作り、個々に合わせた工夫をしている。		
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスではメダカを飼っており、庭に花や野菜を植え、園芸活動ができるよう取り組んでいる。また、中庭にはテーブルやベンチを置き、草ぬきの休憩場所にもなっている。		

Ⅴ. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)